

巻頭言

新しい時代に向かって
オール千葉商科大学の「翼」を担う会として

勝田 啓示
佐久間 聖

5 4

理事長交代「挨拶

理事長退任にあたって
社会が必要とする学園に

原田 嘉中
内田 茂男

6 7

特集 1

日本初、電力で「自然エネルギー100%大学」を達成
—再エネ社会へ、発電での貢献—

原科 幸彦

8

特集 2

『組織体制の改革』
第Ⅱ期中期経営計画がスタート
商大生にとって必須の教養とは何か
—基盤教育機構の発足にあたって—

内田 茂男
枡岡 源一郎

18 22

2019年度入学者の入試振り返り

出水 淳

25

式典報告

希望の光につつまれて—平成30年度学部学位記授与式より
満開の桜に祝福されて—2019年度学部入学式より

齋藤 僚太
清田 悟

28 36

社会に巣立つ卒業生

様々な経験をした4年間
初志貫徹
CUICとの出会い—人間社会学部での学びと経験—
様々な挑戦から生まれた、今の自分

齋藤 僚太
清田 悟
堀田 知里
椿 幹季

52 53 54 55

追悼文

学校法人千葉学園元監事・千葉商科大学同窓会元会長 故小嶋清郎氏を偲ぶ

勝田 啓示

56

本部からの報告

常任理事会・理事会の開催

広報・IT委員会

57

同窓会活動

卒業祝賀会開催(大学・同窓会共催)

各委員会からの報告(直近の委員会より)

57

同窓会活動

支部からの報告

同期会からの報告

59

同窓会活動

OB会からの報告

OB会からの報告

65

随筆

卒業生のお宿・お店紹介『奥那須の秘湯・三斗小屋温泉 大黒屋』
SNSで広がる輪
船に飛び乗る勇気を

高相澤 大蔵
奥平 梨紗
鷺谷 浩輔

69

CUC経営者会議

CUC経営者会議ニュース

教育後援会

73

教育後援会活動

教育後援会新会員歓迎会・新入生保護者会の開催について
保護者寄稿
「挑戦したい」を応援する

中川 奈見
和田 義人

76

ゼミ紹介

創立100周年に向けて学生たちが本気でチャレンジ！
「CUC100(ワンハンドレッド)ワイン・プロジェクト」

和 田 義 人

78

CUCレポート

■ ニュース・イベント
千葉県弁護士会と包括協定を締結
個人・団体合わせて193件が学生表彰に輝きました
人間社会学部生らを取り組んだ「真間あんどん祭り」の活動が
市川市景観賞を受賞

■ キャリア支援センターニュース
—わたしの未来がここにある—
オフライン型マッチングサイト「meRAI」のサイトオープンと今後の可能性

■ 地域連携推進センターニュース
第9回地域連携フォーラム開催
リコージャパン株式会社販売事業本部千葉支社との包括連携協定の締結
中小企業マネジメントスクール開催中

川 瀬 功

81

退任された教員より

教職員・学生・同窓生に恵まれた環境に感謝
充実した日々を振り返って
千葉商科大学での大学教員としてのライフサイクル
三十九年の歳月の重み

太田 三郎
小倉 信次
佐藤 正雄
塩谷 透

87

図書館より

古本募金のお知らせ

93

▼千葉商科大学創立90周年記念事業 寄付者芳名録 94 ▼第49期同窓会維持会費・入会金納入者一覧 95 ▼同窓会支部事務局一覧 96 ▼編集後記 98

新しい時代に向かつて

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭34商)



正門を入ると緑の木々が陽の光に映え一段と美しく見えます。新入生も生活環境に慣れ、キャンパスライフを謳歌しているようであります。先日、同窓会事務室に海外研修を終えた一人の女子学生が見え、英語での挨拶でした。同窓会も英会話ができないと学生に置いて行かれるのではと危機感を覚えました。大学の教育方針である経営者や専門家として高い倫理観を持って活動する人材育成が着実に浸透していることを感じます。

5月1日、新元号「令和」になり、新しい時代の到来で身も心も引き締まる思いであります。出典は万葉集第5巻序文「初春の佳き月の下に、空気は澄んで、風は穏やか……」ということで清らかな気持ちになり、気分一新、勇氣が湧いてくるようであります。

大学は創立100周年に向けていろいろな課題に取り

組んでおられます。同窓会は令和2年11月に創立50周年を迎えます。更に努力を重ねたいと思います。学生の皆さんはワインプロジェクトで「ぶどう栽培」に挑戦しています。10年後には市川国府台産商大ブランドのワインが完成することです。その折には、このワインで乾杯することを夢見ております。今から楽しみみの一つでもあります。

『きずな』30号の発刊は節目となる記念号であり、内容も大学、同窓会、教育後援会の今後の意欲が伝わってまいります。そんな意味合いからも大変意義深いものでもあります。今後も一段と充実していくことでありましょう。新しい時代もオール千葉商大で力を合わせ、母校の発展に貢献できるよう努力したいものであります。

様々な経験をした4年間

齋藤 僚太

横須賀市役所勤務
平成31年3月 政策情報学部卒



現地学生との交流（筆者はいちばん左）



商大卒業式にて（筆者はいちばん左）

入学式の時、島田晴雄前学長がダブルディグリープログラムについて話しているのを聞き、大学生活で多くのことを経験しようと考えていたため、私はダブルディグリープログラムに参加しようと思いました。

このプログラムは、プログラムの提携先の上海立信會計金融学院と千葉商科大学の学位を4年間で取得し

ようというプログラムになります。

1、2年次のころは、留学先では日本語が通じることはほとんどないため中国語の勉強に必死になりました。しかし私は、政策情報学部の方

では公務員を目指していたこともあり、公務員試験対策と中国語の勉強の両立が大変で、公務員試験対策の勉強は本来3年次には本格的に始めなければならず、その1

年間に留学しなければならなかったため、私は一度このプログラムをやめよう

と考えました。そんなときに中国語を教えてくださいました。施先生と呉先生から「この貴重な経験を絶対にすべし」と言っていた

ると言っていたとき、それなら最後までやってみようと思いました。1年間の留学では、多くのことに驚きました。戦争のことなどで日本人に対してあまり良い印象を持っていないと思っていました。また、中国では電子マネーを使う人がほとんどで、現金を持ち歩く事がないことに驚きました。

学業の方では、なかなか中国語が相手に通じずとても大変でした。私の場合、授業内に1人は日本のアニメや漫画の影響で日本語が少し分かる学生がいたため、その人たちから授業で分からなかったところを教えてくださいました。中国語や文化を教える

この留学では多くの貴重な経験ができ良かったです。無事に卒業できたのも商大の先生や職員の方々、友人の支えがあったからだと思います。私は4月から社会人になるので、そこでも留学時の向上心を忘れず行動していきたいです。

初志貫徹



千葉ジェッツ・プロジェクトにて

今年の春に大学を卒業し、4年間を振り返ると内容の濃い大学生活だったと実感しています。私の所属する学部は、特徴であるアクティブラーニングを率先して学べる場所であり、今までの学問からの学びに加え、企業や地域の方と連携して成長

できる環境にありました。その中で私はプロジェクト活動に力を注ぎました。実際に企業

清田 悟

ダイキンエアテクノ株式会社勤務
平成31年3月サービス創造学部卒

の方とビジネス上で会う経験が初めてだった私は、ただ話を聞くだけで一杯でした。ですが、夢中で活動した結果、気がつくところ属していた千葉ジェッツ・プロジェクトで3年次に代表を務め、メンバーと精神的に活動しました。他にも簿記検定やゼミナール、アルバイトなど様々なことに取り組めたのは、大学1年次の講義で卒業までの目標を決めたのがきっかけでした。

その授業では大学4年間をすころくに置き換え目標を立てるもので、その目標として私は「行動力のある人間になる」ことを掲げました。商大に入学し、企業の人との距離の近さや、サービス業について深く学べ

ることを知り、行動しないともったいないと思い、そのために私に不足している行動力を身に付けたいと考えたのです。そこから地域の町おこしなど学外での活動にも積極的に挑戦しました。その結果、この4年間で自分の感性を磨き、行動力を身に付けることができたと感じています。この4年間、こうして様々なことに夢中になれたのも親身になってくれる先生方、楽しい時も辛い時も共にしてきた友人、学事関連でお世話になった学部事務課の皆様、この素晴らしい方々の支えがあったからこそ、私は貴重な経験をすることができたと心から感謝しています。

最後になりますが、この大学はやってみることで可能性が何十倍、何百倍にもなる力を秘めていると改めて実感しました。この4年間を糧にしてこれからも精進して参ります。

CUCとの出会い 人間社会学部での学びと経験

堀田 知里

千葉商科大学勤務
平成31年3月人間社会学部卒

実家から通学できる範囲で大学を探していた中、新しい学部ができる
と知人から聞き、「とりあえず行ってみよう」という軽い気持ちで参加したCUCのオープンキャンパス。学部説明の際に「これからの社会に必要とされる人材を育てる」という言

葉を聞き、具体的に将来の目標がなかった私にとって「ここなら何かやりたいことが見つかるのではないか？」という理由で受験を決意しました。

1年生の夏、入学したからには何かチャレンジしてみたいと思い参加した地域プロデューサー養成プロジェクトのアクティブラーニング。先輩方と青森県弘前市の地域活性化プロジェクトとして「弘前ウエディング」がスタートしました。企画当初は、全国規模のコンテストに出場することが目標でしたが、そこで高い評価をいただき、現



弘前ウエディング(洋装)(筆者は左から4番目)



弘前ウエディング(和装)

現に向け活動していくこと

になりました。その中で地域で活躍する方等と出会い、産学官連携の企画として活動が進められました。勿論その中ですべてが思い通りに進む訳ではなく、逃げ出したくなる時もありました。でもそんな時、企画に賛同し具現に向け協力して下さる地域の方々、どんなことでも親身に指導して下さる先生、一緒に悩み相談できる先輩、そしていつも活動を支援応援して下さいる職員の方々がいたからこそ「まだ、やれることがある。頑張ろう。」という思いを持つようになっていました。そうして続けられたからこそ、何事に対しても挑戦する行動力を身に付け、環境の異なる方と協働する楽しさ・大変さを知ることができたのだと感じています。

具体的な目標もなくたまたまCUCに入学した私ですが、今ではCUCに入学し人間社会学部で実学的に学ぶことができたからこそやりたいことを見つけたらと思います。4月からは、これまで学んだことを糧に社会人生活を送っていきたいです。



OCスタッフ、2017年度新スタッフ採用チーム
(筆者は、左から5番目)

様々な挑戦から生まれた、今の自分

椿幹季

株式会社エイチ・アイ・エス勤務
平成31年3月国際教養学部卒

時が経つのが長いようで短く、気が付けば卒業式を迎え、4月1日から新社会人として働くことを楽しみに過ごしています。

4年間の大学生活を振り返ってみると、私の学生生活は「ほかの人には経験できないようなことに挑戦する」という気持ちを持って過ごして

いたように思います。学業面では「国内旅行業務取扱管理者」と呼ばれる国家資格の取得に挑戦しました。課外活動ではオープンキャンパススタッフ(以下OCスタッフ)として活動し、アルバイトでは「インバウンド添乗員」として働きました。特にOCスタッフとインバウンド添乗員は、自分自身が大きく成長した活動でした。

OCスタッフでは新スタッフ募集代表として活動し、2018年度新スタッフの勧誘活動を行いました。勧誘活動を行うにあたってポスターのデザインからキャッチコピーを考え、説明会や研修会などの企画も総責任者として活動し、結果136名の募集に繋がりました。現在も多くのスタッフが活動しています。

またアルバイトでは資格取得担当の先生に「添乗員の仕事に興味がないか」と声を掛けられ、「誰にでも経験できることではない」と思いました。外国人のお客様のツアーに添乗し、お客様に最大限楽しんでいただきたい、些細な事でも助けたいという気持ちを持って活動しました。この行動の甲斐があつて毎回お客様とお別れする際、笑顔で「ありがとう」と言ってくださることに日々やりがいを感じ、この頃から旅行業界で働きたいと思いはじめました。

4月からは旅行会社で働きます。仕事内容や学生から社会人に代わるという不安はある反面、将来への希望や新しいことへの挑戦心が胸を弾ませます。

将来は法人営業やカウンセラーとして活躍し、お客様の生の声を活かしたツアー造成部署でツアーを造成したいと考えています。そして自分が造成したツアーをたくさんのお客様に利用してもらい、旅行を楽しんでいただきたいと考えています。